

4. 成果の要約

電照 + 加温による抽だい抑制技術は、施設の利用効率を高め、単位面積当たりの収量増による所得増加が見込まれた。ただし、市場価格によっては1時間当たりの所得の減少につながることから、暖房に要する経費削減方法の検討が必要であると考えられた。

(担当者 黒磯分場 矢田部健一) 現 上都賀農振事務所

表 - 1 抽だい抑制栽培導入による経済評価 (10aハウス当たり)

		体系		体系		慣行
収量 (kg)	3月収穫	6,950	4月収穫	7,690	7月収穫	5,400
	9月収穫	5,400	10月収穫	5,400		
	合計	12,350		13,090	(1.2作)	6,480
単価 (円/kg)	3月収穫	465	4月収穫	543	7月収穫	472
	9月収穫	577	10月収穫	658		
粗収益 (円)		6,347,550		7,728,870		3,058,560
経営費 (円)	種苗費	110,400		110,400		40,320
	肥料費	137,883		137,883		123,860
	農薬費	21,727		21,727		18,144
	光熱費	1,269,939		1,225,739		6,000
	諸材料費	535,887		535,887		445,664
	原価償却費	519,634		519,634		115,714
	計	2,595,470		2,551,270		749,702
出荷経費 (円)		1,094,357		1,179,969		568,750
農業所得 (円)		2,657,223		3,997,631		1,740,108
1時間当たり所得 (円)		1,024		1,540		1,117

注) 原価償却費: パイプハウス900,000円、暖房機2,244,000円とした。

表 - 2 作業時間 (時間 / 10a)

	育苗	定植準備	定植	本圃管理	収穫	調製	片づけ	合計
体系	74.6	57.6	198.0	402.6	178.8	1666.8	18.2	2596.6
体系	74.6	57.6	198.0	402.6	178.8	1666.8	18.2	2596.6
慣行	44.8	34.6	118.8	241.6	107.3	1000.1	10.9	1558.1